

法人番号	131008
プロジェクト番号	S1391002

## 研究進捗状況報告書の概要

### 1 研究プロジェクト

学校法人名	学習院	大学名	学習院大学
研究プロジェクト名	東アジアの歴史都市と自然環境－先端科学が拓く「古都・長安学」		
研究観点	研究拠点を形成する研究		

### 2 研究プロジェクトの目的・意義及び計画の概要

本研究は、中国の古都・長安はどのようにして千年以上にわたって古代文明の中心であり続けたのか？という問題について人間と都市・自然環境を軸に、様々な先端科学の成果を取り入れて解明する古都を目的としている。この「千年持続都市・長安」の自然と人間の関係は現在の環境問題に対処する際にも有効である。さらに、その関係は長安から洛陽・大同、朝鮮半島の慶州、日本の平城京など東アジアの歴史都市へと広がった。その方法は、考古・文献資料から衛星写真などのリモートセンシングデータや動物の DNA 分析、青銅器などの生産物の分析など先端科学の成果を取り入れることを目的とする。本プロジェクトでは長安と水・生物・生産・宇宙など様々な観点から研究をすすめ、千年の古都・長安の実像を明らかとする。

本プロジェクトに関連して、本学では東洋文化研究所にて東海大学情報技術センターとの共同研究「衛星データを利用した秦始皇帝陵と自然景観の復元」プロジェクト(2009-2010)をおこない『宇宙と地下からのメッセージ～秦始皇帝陵とその自然景観』(2013)を刊行した。また、JSPS 頭脳循環を加速化する若手研究者派遣プログラム「リモートセンシングデータを利用した黄河流域の歴史と環境」国際研究プログラム(2010-2012)に採択され、中国の陝西師範大学西北研究院と復旦大学歴史地理研究センターに各1名の若手研究者を1年半から2年半にわたって派遣し、衛星データを利用した古環境の分析について現地研究者・研究機関との共同研究をすすめた。このプロジェクトでは黄河の支流の渭河や黄河の下流域の歴史の変遷を様々な衛星データを利用して復元する試みがおこなわれた。この研究の成果の一部は2012年に放送されたNHKスペシャル「中国文明の謎」や日本テレビ「最新科学が歴史を暴く」において衛星データによる水環境の復元などが紹介された。また、JSPS アジア研究教育拠点事業「東アジア海文明の歴史と環境」プロジェクト(2006-2010)によって築かれた韓国・慶北大学校との強力なネットワークを活用したい。

上述のようなリモートセンシングの研究実績を中心としつつ、本研究プロジェクトでは、DNA分析・青銅器の成分分析、古代天文などこれまで個別に歴史学に利用されていた先端科学を「長安」という場を設定して、その千年にわたる持続性について都市プランと環境に着目した点にこれまでにないユニークさがある。先端科学は3D映像やグラフ・数字など可視的なかたちで表現することができるため、展覧会でわかりやすく市民にも公開したい。

法人番号	131008
プロジェクト番号	S1391002

### 3 研究プロジェクトの進捗及び成果の概要

#### 平成 25 年度

衛星 SAR を用いた探査技術を中国で展開するための準備として、渭水流域の秦～漢代の陵墓群や、漢長安城や咸陽宮などの代表的大型遺跡の現況把握と情報共有化を行った。また、国際シンポジウム「リモートセンシングデータを活用した東アジア古代史研究」を開催し、研究成果の発表や国内外の研究者の交流を図った。

#### 平成 26 年度

平成 25 年度に引き続き、衛星 SAR を用いた探査技術の中国展開の準備として関中平原に分布する秦から唐代の陵墓群とその関連遺跡群を調査し、現況把握と情報共有化を行った。国際シンポジウム「陝西省考古発見の最前線」を開催し、西安を中心とする考古発見の最新の研究成果を発表し、研究者の国際学術交流を行った。中国文字博物館の日本初巡回展『漢字展～中国古代文明の歴史を探る～』を学術面から共催した。中国リモートセンシングデータ活用の一環として、3D プリンターを用いて地形データの再現を試みた。

#### 平成 27 年度

国際シンポジウム国際シンポジウム「古代東アジア都市の馬と環境」を開催し、都市と馬というテーマを中心に歴史学・考古学の最新の研究成果を発表した。中国揚州で運河・隋煬帝墓、南京で運河の調査を行い、中国における都市と環境について把握するとともに、最新の考古学の成果を見学した。

法人番号	131008
プロジェクト番号	S1391002

平成25年度選定「私立大学戦略的研究基盤形成支援事業」  
研究進捗状況報告書

1 学校法人名 学習院 2 大学名 学習院大学

3 研究組織名 国際長安学研究センター

4 プロジェクト所在地 東京都豊島区目白 1-5-1

5 研究プロジェクト名 東アジアの歴史都市と自然環境－先端科学が拓く「古都・長安学」

6 研究観点 研究拠点を形成する研究

7 研究代表者

研究代表者名	所属部局名	職名
鶴間 和幸	文学部	教授

8 プロジェクト参加研究者数 20 名

9 該当審査区分 理工・情報 生物・医歯 人文・社会

10 研究プロジェクトに参加する主な研究者

研究者名	所属・職名	プロジェクトでの研究課題	プロジェクトでの役割
鶴間和幸	文学部・教授	衛星データからみる関中平原・長安	[総括]
村松弘一	国際研究教育機構・教授	衛星データを利用した長安都市水利研究	[長安と水環境]
鐘江宏之	文学部・教授	長安と平城京の比較	[東アジア比較研究]
久慈大介	国際研究教育機構・客員研究員	衛星データを利用した長安・洛陽の新石器遺跡比較	[長安と生産]
福島 恵	日本学術振興会特別研究員 RPD	長安周辺のソグド人墓の分布	[長安と水環境]
青木俊介	国際研究教育機構・PD 共同研究員	漢代画像石にみる都市生活と環境	[長安と宇宙]
菅野恵美	関東学院大学社会学部現代社会学化・准教授	漢代画像石にみる都市生活と環境	[長安と生物]

法人番号	131008
プロジェクト番号	S1391002

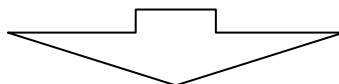
市来弘志	国際研究教育機構・客員研究員	衛星データを利用した統万城と長安城の比較	[東アジア比較研究]
惠多谷雅弘	東海大学情報技術センター・研究員	衛星データによる長安とエジプトの都市プラン比較	[長安と水環境][長安と宇宙]
吉田愛	国際研究教育機構・PD共同研究員	衛星データに見る北魏時代の大同・太原	[東アジア比較研究]
李令福	陝西師範大学西北研究院・教授	長安の都市水利と灌漑水利	[長安と水環境]
段清波	西北大学文博学術院・教授	漢代皇帝陵と自然環境	[長安と水環境]
張衛星	秦始皇陵兵馬俑博物館	秦始皇帝陵附近発掘調査	[長安と生産]
黄曉芬	東亜大学・教授	衛星データを利用した長安の南北中軸線と直道	[長安と宇宙]
焦南峰	陝西省考古研究院・研究員	漢代皇帝陵の発掘調査	[長安と生産]
陳力	阪南大学・教授	衛星画像を利用した漢代皇帝陵の調査	[長安と生物]
李文基	慶北大学校師範大学・教授	朝鮮古代都市と自然環境	[東アジア比較研究]
菊池大樹	日本学術振興会特別研究員PD	始皇帝陵付近出土馬骨のDNA分析	[長安と生物]
廣川守	泉屋博古館・学芸員	青銅器の成分分析調査	[長安と生産]
井黒忍	早稲田大学高等研究所・助教	関中平原の水利施設	[長安と水環境]
(共同研究機関等)			

<研究者の変更状況(研究代表者を含む)>

旧

プロジェクトでの研究課題	所属・職名	研究者氏名	プロジェクトでの役割
長安周辺のソグド人墓の分布	学長付国際研究交流オフィス・EF共同研究員	福島 恵	[長安と水環境]

(変更の時期:平成 26 年 4 月 1 日)



法人番号	131008
プロジェクト番号	S1391002

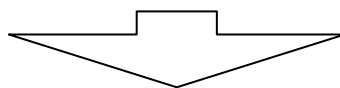
新

変更前の所属・職名	変更(就任)後の所属・職名	研究者氏名	プロジェクトでの役割
学長付国際研究交流 オフィス・EF 共同研究 員	早稲田大学教育・総合科学学 術院・日本学術振興会特別研 究員 RPD	福島 恵	[長安と水環境]

旧

プロジェクトでの研究課題	所属・職名	研究者氏名	プロジェクトでの役割
始皇帝陵付近出土馬骨の DNA 分析	奈良文化財研究 所・客員研究員	菊地 大樹	[長安と生物]

(変更の時期:平成 26 年 4 月 1 日)



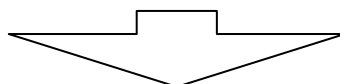
新

変更前の所属・職名	変更(就任)後の所属・職名	研究者氏名	プロジェクトでの役割
奈良文化財研究所・客 員研究員	京都大学人文科学研究所・日 本学術振興会特別研究員 PD	菊地 大樹	[長安と生物]

旧

プロジェクトでの研究課題	所属・職名	研究者氏名	プロジェクトでの役割
漢代画像石にみる都市生 活と環境	東洋文化研究所・ 客員研究員	菅野恵美	[長安と生物]

(変更の時期:平成 27 年 4 月 1 日)



新

変更前の所属・職名	変更(就任)後の所属・職名	研究者氏名	プロジェクトでの役割
東洋文化研究所・客員 研究員	関東学院大学国際文化学部比 較文化学科・准教授	菅野恵美	[長安と生物]

## 11 研究進捗状況(※ 5枚以内で作成)

## (1)研究プロジェクトの目的・意義及び計画の概要

中国の古都・長安はなぜ千年以上にわたって古代文明の中心であり続けたのか？それは人間が自然環境を過度に利用するのではなく、水環境や動植物と共生するような都市や陵墓を含む首都圏が建設されたためではないか。そのような都市と自然環境の関係性までも含めた都市計画は東アジアの歴史都市へどのような影響をあたえたのか。本研究では「千年の古都・長安」を対象とした「長安学」を中国側研究者と提唱し、これらの仮説と課題について、長安から朝鮮半島の慶州、日本の平城京へと視野を広げて検討をする。その際、考古・文献の資料群を基礎としつつ、リモートセンシングデータ(衛星データ等)や動物の骨のDNA分析、青銅器の金属成分分析、古代天文復原など先端科学の成果を取り入れることによって、多様で重層的な古代の環境情報を得ることが可能となる。本プロジェクトでは長安と水環境・生物・生産・宇宙など様々な観点から研究をすすめ、古都・長安の実像を明らかとするとともに、人間・都市・環境の未来を探ることとしたい。

## (2)研究組織

法人番号	131008
プロジェクト番号	S1391002

文明と自然環境とのかかわりの観点から4つのテーマグループにわけて研究を推進した。学習院大学国際研究教育機構・陝西師範大学西北研究院・復旦大学歴史地理研究センター・陝西省考古研究院(中国)、慶北大学校師範大学歴史教育科(韓国)との間で国際共同研究連携コンソーシアムを形成して展開する。

【テーマグループ① 長安と水環境】

長安の都市水利プランや首都圏の水利灌漑の遺跡を衛星データを活用して復原。

【テーマグループ② 長安と生物】

長安および首都圏の動物・植物などの生物と人間の関係を馬骨の DNA 分析を通じて復原。

【テーマグループ③ 長安と生産】

古代文明の青銅器の生産と材料の関係を銅鏡等の含有成分分析を通じて調査。

【テーマグループ④ 長安と宇宙】

長安の都市設計と古代人々の天文観を関係づける。

(3) 研究施設・設備等

東京都豊島区目白 1-5-1 学習院東 1 号館 6 階・7 階の学習院大学国際研究教育機構の施設を利用している。特に、601 号室、602 号室を本プロジェクトの研究拠点とし、参加研究者 PD・RA 等が研究を推進。

(4) 進捗状況・研究成果等 ※下記、13及び14に対応する成果には下線及び\*を付すこと。

<現在までの進捗状況及び達成度>

平成 25 年度

【現地調査—長安と水環境】

古都・長安を含む渭水流域の秦～漢代の陵墓群(渭陵・義陵・康陵・陽陵ほか)および漢長安城や咸陽宮などの代表的な大型遺跡と地理環境についての現地調査を行い、同地域における新たな調査方針策定のための現況把握と情報共有化を行った。また、現地専門家との意見交換や東海大学情報技術センターと共同で SAR の観測対象物のパラメータ情報の収集を通して、各遺跡の空間的特徴や古代から現在に至る自然環境の変遷を整理した。

【馬骨調査—長安と生物】

中国古代馬の系譜および養馬体制解明のための自然科学分析を進めるにあたり、馬の骨の DNA 解析を担当する東京農工大学生物資源ゲノム解析センターとの共同研究の方向性を探り、本研究に関わる東京農業大学・北里大学などの研究者と今後の研究内容・役割分担について協議し、骨のサンプルを提供する中国・陝西省考古研究院との共同研究協議書を作成した。

【国際シンポジウム・講演会開催—リモートセンシング調査(長安と宇宙)】

リモートセンシングに関する研究成果を内外に発信するため、国際シンポジウム「リモートセンシングデータを活用した東アジア古代史研究」\*1を開催し、招聘研究者の孫濤氏、潘威氏および鶴間・恵多谷による報告と鶴間、恵多谷、村松の三者による鼎談を行った\*2\*3\*4\*5\*6。孫濤氏(復旦大学)、潘威氏(陝西師範大学)はリモートセンシング分野の専門家として招聘した研究者であり、上記のシンポジウムでの発表を中心に研究交流を行った。

平成 26 年度

【現地調査—長安と水環境】

前年度に引き続き、衛星 SAR を用いた探査技術の中国展開の準備として、関中平原に分布する唐

法人番号	131008
プロジェクト番号	S1391002

代の陵墓郡(乾陵・茂陵・靖陵・建陵・橋陵・景陵・光陵・泰陵)とその関連遺跡群を調査した。

#### 【馬骨調査—長安と生物】

中国社会科学院考古研究所・陝西省考古研究院・殷墟遺跡を訪問し、馬骨の資料調査を行った。

#### 【国際シンポジウム・講演会開催—リモートセンシング調査と考古学】

これまでの現地調査および中国側の現地調査の成果公表の場として国際シンポジウム「陝西省考古発見の最前線」\*7 で鶴間・恵多谷・菊地が報告を行いこれまでの研究成果を発表した\*8\*9\*10。また、客員研究員として、任小波氏(復旦大学)、聶順新氏(陝西師範大学)、南廷昊氏(慶北大学校師範大学附設高等学校)を招聘し、講演会を行った\*12\*13\*14。

#### 【特別展覧会「漢字展」の実施】

中国文字博物館の日本初巡回展『漢字展～中国古代文明の歴史を探る～』を学術面から共催\*11。漢字の起源やその形成・発展・変遷・伝播の軌跡について、本プロジェクトの主要テーマである「都市」と関連させた展示を行い、これまでの研究成果を一般に広く公開した。また、同展覧会において、驪山と始皇帝陵周辺の 4K 衛星 3 次元景観図を展示した。これには Landsat 画像、ALOS(だいち)画像、QuickBird の衛星画像を使用し、秦始皇帝陵付近の地形情報(等高線)は、衛星 DEM (Digital Elevation Model)等をコンピュータ処理し、衛星データと重ね合わせて用いている。この 3 次元映像によって全方位から秦始皇帝陵を俯瞰、観察できる。また、中国リモートセンシングデータ活用の一環として、3D プリンターを用いて地形データの再現を試みた。

### 平成 27 年度

#### 【現地調査—長安と水環境】

中国・長江流域の揚州・南京において長江・運河・都市に関する調査をおこなった(新発見の隋煬帝墓も実見)。華南の中国古代である揚州および建康(南京)と水環境の関係について考古学・歴史地学の観点から調査を実施した。

#### 【馬骨調査—長安と生物】

中国社会科学院考古研究所・陝西省考古研究院・殷墟遺跡を訪問し、馬骨の資料調査を行った。

#### 【青銅器調査—長安と生産】

学習院大学国際研究教育機構が所蔵する銅鏡の調査を行った。所蔵している銅鏡及び銅銭は 287 点。そのうち 172 点については、制作年代・直径・重さ・文様による分類といった基礎的な調査が終了している。

#### 【国際シンポジウム「東アジア古代都市の馬と環境」・講演会開催】

国際シンポジウム「古代東アジア都市の馬と環境」\*15を実施した。歴史学の分野から鶴間、村松、福島、馬骨のDNA調査については菊地が報告を行いこれまでの研究成果を発表した\*16\*17\*18\*19。とりわけ、この度の国際シンポジウムでは、生物学の専門家や、中央ユーラシアにおける遊牧文化の専門家にもコメンテーターを依頼し、文献史学と考古学からのアプローチによる報告に加え、生物学的見地からの視野を含めてテーマを論じることができた。質疑応答においても、長安周辺における記録上の馬について、また当時の馬の生態や、DNAに見られる数値について積極的な質問が寄せられ、文系・理系双方から、知識と理解を深める貴重な場となった。また、客員研究員として、郭雪妮(陝西師範大学)、齊光氏(復旦大学)、金康勲(亀尾荊谷中学校教師)肖愛玲氏を招聘し、講演会を実施した\*21\*22\*23\*24。

#### 【成果の発信】

鶴間が、NHKスペシャル アジア巨大遺跡 第3集「中国 始皇帝陵と兵馬俑」\*20(11月7日放映)に出演し、当プロジェクトの研究成果を一般に広く紹介した。

法人番号	131008
プロジェクト番号	S1391002

### <特に優れた研究成果>

様々な分野の研究者が研究をすすめながら、年に1回、研究成果のまとめとして国際シンポジウムを実施してきた。これらのシンポジウムは、本プロジェクトの年度ごとの研究成果の集大成としてだけでなく、海外から招聘した研究者による最新の研究成果が発表される場となっている。シンポジウムには、学内・学外を問わず多くの研究者の参加があり、当プロジェクトの研究に対して建設的な意見をいただいている。第一回「リモートセンシングデータを活用した東アジア古代史研究」\*1(平成 25 年 11 月 16 日)は衛星写真等のリモートセンシングデータを中国古代史に如何に利用できるかについて、秦の始皇帝陵のフィールド研究およびGISを活用した研究事例を報告した。このGIS(地理情報システム)と歴史研究の関係は平成 27 年度史学科大会シンポジウムでも全体のテーマとなり、本研究のメンバーである村松・恵多谷が講演をおこなった。第二回「陝西省考古発見の最前線」\*7(平成 26 年 12 月 20 日)、では陝西省考古研究院との連携シンポジウムとして実施し、中国から曹龍・張偉氏を招聘し、最新の漢代の墓制研究および高陵楊官寨遺跡の発掘に関する情報を発表した。日本側からは馬骨のDNA研究の現状とともに秦の始皇帝陵の研究を発表した。第三回「古代東アジア都市の馬と環境」\*15(平成 28 年 1 月 23 日)は中国史・日本史・朝鮮史および考古学の研究者が馬と人間の関係性という環境史をあつかう研究を発表した。なお、研究報告の内容を中心とした論文集の刊行を予定している。以上の点から、当プロジェクトが継続して開催してきた国際シンポジウムは特に優れた研究成果といえる。

### <問題点とその克服方法>

当プロジェクトでは、復旦大学・陝西師範大学・慶北大学校からの継続的な若手研究者の招聘と交流によって、研究実績を蓄積することができた\*2\*3\*12\*13\*14\*21\*22\*23\*24。今年度以降も研究者の招聘を継続していく予定であるが、こうした研究実績や研究者同士の繋がりをどのように活用していくかという点が今後の課題として挙げられる。

また、学習院大学国際研究教育機構が所蔵する銅鏡の調査を進めているが、まだ基礎的な段階に留まっている。銅鏡の扱いや成分調査には専門的な知識や技術が必要なためであるが、今後は専門家の助力を得て、より詳細に調査を進めていく予定である。

### <研究成果の副次的効果(実用化や特許の申請など研究成果の活用の見直しを含む。)>

平成 26 年度の進捗状況にも記したが、中国文字博物館の日本初巡回展『漢字展～中国古代文明の歴史を探る～』\*11を学術面から共催した。漢字の起源やその形成・発展・変遷・伝播の軌跡について、本プロジェクトの主要テーマである「都市」と関連させた展示を行った。展示期間中にはプロジェクト所属研究者がそれぞれのテーマごとに講演を行ったり、驪山と始皇帝陵周辺の 4K 衛星 3 次元景観図といった最新の衛星画像技術を紹介したりすることができた。このように、漢字展開催に協力できたことは、研究成果を社会に還元するという見地から見て、大きな研究成果の副次的効果といえる。

また、平成 27 年度のシンポジウム「古代東アジア都市の馬と環境」\*15において、NHK グローバルメディアサービスの協力により、シンポジウムの内容のリアルタイムテキスト配信を試験的に行った。これによって、シンポジウムに出席できない人もリアルタイムで講演の内容を知ることができ、配信内容はアーカイブとして保存されるので後日に見返すことも可能である。今後の研究成果の公表における一つの新しいケースとして期待できるのではないか。

### <今後の研究方針>

#### 【現地調査—長安と水環境】

引き続き、長安とそれを巡る環境の現地調査・研究を東海大学情報技術センターと共同で実施する。



法人番号	131008
プロジェクト番号	S1391002

秦は咸陽(長安)を中心に、南門や東門を建設した。東門は遠く、黄海に面した連雲港にあるとされているが、その場所は確認されていない。本研究では、咸陽から連雲港への東西軸、咸陽から直道への南北軸をリモートセンシングの技術を用いて、新たな成果として提供したい。その上で、現地調査を実施し、秦(漢)が首都を中心として帝国全体をどのように認識していたのか(地理認識)を探りたい。

#### 【馬骨調査－長安と生物】

引き続き、陝西省考古研究院と東京農業大学との共同研究をすすめ、漢代の陵墓に陪葬された馬の系譜を解明したい。

#### 【青銅器調査－長安と生産】

引き続き銅鏡の調査を継続して、研究サンプルを増やすとともに、現在、新たな資料として民間の收藏家所蔵の長安等関係の青銅器等の科学的調査の試行を予定している。

#### 【研究者交流】

引き続き、国際研究の拠点として、中国・韓国から新進気鋭の若手研究者を招聘し、共同研究・シンポジウム・講演会を実施する。平成28年度には、これまでの復旦大学・慶北大学校・陝西師範大学の若手研究者に加え、夏炎氏(南開大学)を招聘する予定である。夏炎氏は、主に中国古代の人々が動植物・自然環境・自然現象をどう認知したかという問題に取り組み、当時の人たちの天然資源の利用や生態環境と日常生活との関係といった問題について、人と自然の間の精神的なものが相互に影響を及ぼし合うという視点から、新しい中国古代社会の発展変遷の歴史の筋道を明示している。招聘研究者には講演会にて講演をしてもらう。

#### 【国際シンポジウム開催】

引き続き、平成28・29年度も国際シンポジウムを実施し、研究成果を公表する。(テーマは検討中)

#### <今後期待される研究成果>

平成28年度には、国際シンポジウム「古代東アジア都市の馬と環境」\*15で報告された内容を中心とした論文集を出版する予定である。また、所蔵する銅鏡・銅銭についてさらに詳細な調査をすすめ、その成果を報告書にまとめたい。

#### <プロジェクトの評価体制(自己評価・外部評価を含む。)>

##### 【研究内容に対する評価】

【長安と水環境】、【長安と生物】、【長安と生産】、【長安と宇宙】の各セクションともに学内・外部の研究会に参加し、その時々の研究の成果を報告して批評を受けている。また、平成25・26・27年度と継続して国際シンポジウムを開催し、多くの参加者から建設的意見をいただいた。シンポジウムでは、外部のコメンテーターを招いており、参加者の発言等とあわせて、プロジェクトの内容に対するチェックを受けている。また、開催したシンポジウムや講演会については、字幕付の動画をYOUTUBEにアップロードして公開しており、つねに一般からの批評を受けることが可能となっている。

##### 【研究費等の配分に対する評価】

常に学習院の規定に準拠して予算処理を行っており、研究拠点の置かれている学習院国際研究教育機構、ならびに学習院財務課・人事課のチェックを受けている。さらに大学が外部監査を受けるため、内外で二重三重の評価体制が構築されている。

12 キーワード(当該研究内容をよく表していると思われるものを8項目以内で記載してください。)

- (1) 東アジア (2) 歴史地理学 (3) 環境史  
(4) 水利灌漑 (5) 宇宙考古学 (6) リモートセンシング

法人番号	131008
プロジェクト番号	S1391002

## (7) DNA分析 (8) 青銅器

## 13 研究発表の状況(研究論文等公表状況。印刷中も含む。)

上記、11(4)に記載した研究成果に対応するものには\*を付すこと。

## &lt;雑誌論文&gt;

論文名、著者名、掲載誌名、査読の有無、巻、最初と最後の頁、発表年(西暦)について記入してください(左記の各項目が網羅されていれば、項目の順序を入れ替えても可)。また、現在から発表年次順に遡り、通し番号を付してください。

- 1.村松弘一「清末西安の教育と日本人教習一足立喜六を事例に」『学習院大学国際研究教育機構研究年報』2号、学習院大学国際研究教育機構、2016年2月
- 2.段清波「文化遺産価値体系研究」『西北大学学报哲学社会科学版』、2016(1)、pp23-27
- 3.福島恵「絲綢之路青海道上的粟特人—从看“康令憚墓誌”鄯州西平康氏一族—」、『絲綢之路上的粟特人』羅豊・栄新江編著、寧夏文物考古研究所、2015年刊行予定(海外(中国)書籍、中国語)
- 4.段清波「从秦始皇陵考古看中西文化交流(一)」『西北大学学报哲学社会科学版』2015, 45(1):8-15
- 5.覚張隆史「歯エナメル質の炭素安定同位体比に基づく三ツ寺 I・II 遺跡出土馬の食性復元。」『動物考古』. 32. Pp. 25-37. 査読有り、2015年3月
- 6.王志浩・小田木治太郎・廣川守・菊地大樹 2015「対鄂尔多斯北方青銅文化時期金銀器的新認識」『草原文物』2015年第1期、pp.113-124(査読あり)
- 7.菊地大樹 2015「帯金具の動物意匠」『平成24年度～平成26年度科研費成果報告 東アジア飾り帯文化の生成過程』pp.22-27(査読なし)
- 8.鶴間和幸「災害・環境から古代中国の戦争を読む」『災害・環境から戦争を読む』史学会 125周年リレーシンポジウム、山川出版社、2015年11月、103～124頁
- 9.村松弘一「中国古代関中平原の水利開発と環境—鄭国渠から白渠へ」『史学』85-1～3号(文学部創設一二五年記念号第二分冊)、三田史学会(慶應義塾大学)2015年7月
- 10.鶴間和幸「秦始皇與孔子—關於焚書坑儒的反省」『紀念方詩銘先生學術論文集 史林揮塵』上海戸籍出版社、103～115頁、2015年5月
- 11.惠多谷雅弘・黄曉芬・阮文団、他6名「古代都市遺跡調査における多衛星データの応用について」『日本考古学協会第81回総会研究要旨』pp220-221、査読無、2015年5月
- 12.黄曉芬・一瀬和夫・阮文団、他9名「ベトナム、ルイロウ古城・東墳墓群第1次発掘調査」、『日本考古学協会第81回総会研究要旨』pp86-87、査読有、2015年5月
- 13.鐘江宏之「古代社会と運河の視点」、鈴木靖民・川尻秋生・鐘江宏之編『日本古代の運河と水上交通』、査読なし、25-42頁、2015年5月
- 14.黄曉芬編著『交趾郡治・ルイロウ遺跡 I』科研成果報告書、東亜大学、2015年3月
- 15.鶴間和幸、惠多谷雅弘、「宇宙と地下からのメッセージ—秦始皇帝とその自然環境—、七隈史学、七隈史学会、第17号、pp.1-21、2015.3、査読無。
- 16.村松弘一「陝西省関中三渠をめぐる古代・近代そして現在」『中国乾燥地の環境と開発—自然、生業と環境保全』(北川秀樹編)、成文堂、2015年2月
- 17.村松弘一「アジアを学ぶ—近代学習院の教育～人と人のかかわりから～」『学習院大学国際研究教育機構研究年報』1号、学習院大学国際研究教育機構、2015年2月
- 18.村松弘一「淮河流域の水利技術与東亜区域史—以安徽省芍陂為中心」(中国語)『海外中国水利史研究—日本学者論集』(鈔曉鴻編)、人民出版社、2015年1月
- 19.李令福「杜甫在唐代長安城南的居住環境」陝西師範大学学报哲学社会科学版、2014(1):123-127
- 20.菊地大樹・覚張隆史・劉呆運 (2014). 西周王朝の牧經營. 中国考古学. Pp. 83-100. 査読有り
- 21.菊地大樹 2014「日本在来馬の源流をもとめて—中国古代を駆けた馬たち」『BIOSTORY』(21)pp. 19-25 (査読なし)

法人番号	131008
プロジェクト番号	S1391002

- 22.青木俊介「洞庭郡治小考」、青木俊介、「中国古代簡牘の横断領域的研究」ホームページ、査読無し、[http://www.aa.tufts.ac.jp/users/Ejina/note/note10\(Aoki\).html](http://www.aa.tufts.ac.jp/users/Ejina/note/note10(Aoki).html)、2014年
- 23.青木俊介「封検の形態発展—平板検の使用方法の考察から—」、青木俊介、靱山明・佐藤信編『文献と遺物の境界Ⅱ—中国出土簡牘史料の生態的研究—』、査読無し、pp.229～246、2014年12月
- 24.覚張隆史「化学分析で解明する甲斐の古代馬」『甲斐の黒駒—歴史を動かした馬たち—』、山梨県立博物館、pp.81-84、査読無し、2014年10月
- 25.鶴間和幸「古代中近世東アジア世界における日中関係史」『「日中歴史共同研究」報告書』古代・中近世篇、勉誠出版、2014年10月、共著
- 26.焦南峰「秦人の十个陵区」『文物』、2014(6):64-76、2014年9月
- 27.焦南峰「漢平帝康陵考古調査勘探簡報」『文物』、2014(6)、pp50-63、2014年9月
- 28.鐘江宏之、「郡司と古代村落」、『岩波講座日本歴史3』、査読なし、179-212頁、2014年9月
- 29.段清波「楚地出土的漆棺裝飾文様試析」『文博』2014(3)、25-33、2014年8月
- 30.福島恵「長安・洛陽のソグド人」『アジア遊学:ソグド人と東ユーラシアの文化交渉』森部豊編、勉誠出版、pp.140-160、2014年8月
- 31.青木俊介「里耶」、青木俊介、中国出土資料学会編『地下からの贈り物—新出土資料が語るいにしへの中国』、査読無し、pp.326～331、2014年6月
- 32.青木俊介「肩水金關漢簡の致と通関制度」、青木俊介、『日本秦漢史研究』、査読有り、第12号、pp.36～64、2014年6月
- 33.黄曉芬、阮文団他6名「ベトナム北部 LUY LAU 古城と清姜・参亜漢墓群の調査成果」『日本考古学協会第80回総会研究要旨』pp84-85、査読有、2014年5月
- 34.焦南峰「西漢帝陵『夫人』葬制初探」『考古』、2014(1)、pp77-83、2014年4月
- 35.菊地大樹「馬牲の境界」『中華文明の考古学』同成社、pp.122-131、2014年3月(査読なし)
- 36.青木俊介「里耶秦簡の「続食文書」について」、青木俊介、『明大アジア史論集』、査読無し、第18号、pp.14～35、2014年3月
- 37.村松弘一「後漢時代の王景と芍陂(安豊塘)」『狭山池シンポジウム 2012 記録集 ため池築造と偉人』、大阪狭山市教育委員会、2014年3月
38. 菊地大樹・小田木治太郎・廣川守・王志浩 2014「北方青銅器文化の金銀器—オールドス地域出土品の検討から—」『中国考古学』第14号、pp.103-125(査読あり)
- 39.菊地大樹・覚張隆史・劉呆運 2014「西周王朝の牧経営」『中国考古学』第14号、pp.85-102(査読あり)
- 40.鶴間和幸、恵多谷雅弘、中野良志、岩下晋治、小林次雄、村松弘一、黄曉芬、段清波、張衛星、「衛星データを用いた秦始皇帝陵の陵園空間に関する一考察」、『中国考古学』第14号、pp.101-114、日本中国考古学会、2014、査読有
- 41.村松弘一「ポスト退耕還林時代、黄土高原へのメッセージ:書評・松永光平著『中国の水土流失—史的展開と現代中国における転換点』」『東方』396号、東方書店、2014年1月
- 42.段清波「布紋瓦及在秦地の伝播—来自陝西早期長城沿線の觀察」『考古与文物』、2013(3)、pp57-61
- 43.段清波「咸陽『周陵』属性研究」、『西北大学学报哲学社会科学版』、2013、43(3)pp40-46
- 44.李令福「鄭州列入『中国八大古都』的原因過程及啓示」中国古都研究、2013
- 45.李令福、褚清磊「白居易履道里宅園的景觀建設及其布局特色」中国古都研究、2013
- 46.村松弘一「黄土」『中国經濟史』、名古屋大学出版会、2013年11月
- 47.恵多谷雅弘、宇宙から見つめる古代中国(その2)、Science Portal China 独立行政法人科学技術振興機構・中国総合研究交流センター編、2013年10月、査読無
- 48.恵多谷雅弘、宇宙から見つめる古代中国(その1)、Science Portal China 独立行政法人科学技術振興機構・中国総合研究交流センター編、2013年10月、査読無
- 49.福島 恵「北朝隋唐期におけるソグド人の東方移住とその待遇—新出墓誌史料を中心に—」『唐代史研究』第16号、2013.8、pp.6-37
- 50.鐘江宏之「七道制」、鈴木靖民・吉村武彦・加藤友康編『古代山国の交通と社会』(八木書店)、査

法人番号	131008
プロジェクト番号	S1391002

読なし、23-33 頁、2013 年 6 月

51.市来弘志『水経注疏訳注(渭水篇下)』、東洋文庫中国古代地域史研究班編(共著)、財団法人東洋文庫、2013 年4月

52.鶴間和幸「東アジア海文明と環境への認識」『東アジア海文明の歴史と環境』東方書店、2013 年 4 月、3~23 頁

### <図書>

図書名、著者名、出版社名、総ページ数、発行年(西暦)について記入してください(左記の項目が網羅されていれば、項目の順序を入れ替えても可)。また、現在から発表年次順に遡り、通し番号を付してください。

- 1.村松弘一『中国古代環境史の研究』汲古書院、2016 年 2 月
- 2.鶴間和幸、編著『秦の始皇帝と兵馬俑の謎』別冊宝島、2015 年
- 3.鶴間和幸、編著『秦の始皇帝と兵馬俑』洋泉社 MOOK、2015 年
- 4.鶴間和幸、編著『宇宙と地下からのメッセージ～秦始皇帝陵とその自然環境』D\_CODE、2013 年
- 5.鶴間和幸『人間・始皇帝』岩波書店、2015 年
- 6.段清波『中国歴代長城発現と研究』科学出版社、2014 年
- 7.鶴間和幸『秦帝国の形成と地域』汲古書院、2013 年
- 8.鶴間和幸、編著『東アジア海文明の歴史と環境』東方書店、2013 年

### <学会発表>

学会名、発表者名、発表標題名、開催地、発表年月(西暦)について記入してください(左記の項目が網羅されていれば、順序を入れ替えても可)。また、現在から発表年次順に遡り、通し番号を付してください。

- 1.村松弘一「中国古代関中平原の歴史空間学—複合情報の統合化—」史学会大会シンポジウム「歴史空間学の可能性」東京大学、2015 年 11 月
- 2.村松弘一“Image of Loess Plateau in China: The environmental history of the Qin-Han Empire”, Association for East Asian Environmental History (AEAEH), Kagawa University, 2015, oct
- 3.黄晓芬“A Comparison Between Ancient Roads of Eastern and Western Civilizations—Qin Straight Road vs Roman Road—”「東西文明における古代道路の比較研究—秦直道とローマ道—」(国際シンポジウム)『草原遊牧民族とシルクロード』2015 年 10 月 5-7 日、モンゴル・ウランバートル市
- 4.黄晓芬「漢帝国南端の交趾郡を掘る」、(国際学術シンポジウム)『東アジア古代都市のネットワークを探る—日・越・中の考古学最前線—』2015 年 9 月 26-27 日、東京大学
- 5.黄晓芬『東アジア古代都市のネットワークを探る—日・越・中の考古学最前線—』2015 年 9 月 26-27 日、東京大学
- 6.「漢武帝の時代の内政と外交」国際研究集会「東アジア古代都市のネットワークを探る 郡県都市研究の新展開」、2015 年 9 月 27 日
- 7.鐘江宏之「地方官衙研究の歴史と現状」古代交通研究会、専修大学(東京)、2015 年 6 月
- 8.福島恵「唐代景教徒の墓誌について—新出「花献墓誌」を中心に—」2015 年度唐代史研究会夏期シンポジウム、2015 年 8 月 18 日、於早稲田大学
- 9.菊地大樹「中国古代馬の飼養と生産体制」中日考古学論壇、2015 年 3 月、北京

法人番号	131008
プロジェクト番号	S1391002

- 10.鶴間和幸「中国文明とエジプト文明の比較」東海大学情報技術センター情報技術開発報告会、2015年2月21日
- 11.菊地大樹「中国古代王朝的養馬体制」2014年陝西省考古研究院業務工作總結会議、2015年1月、西安
- 12.菊地大樹「中国古代王朝の馬匹生産」学習院大学国際研究教育機構国際シンポジウム「陝西省考古発見の最前線」2014年12月、東京
- 13.鐘江宏之、「江戸・東京木簡研究の現状と課題」、奈良文化財研究所(奈良)、2014年12月
- 14.黄曉芬「ベトナム北部・ルイロウ遺跡 2014年発掘調査の成果報告」、『日越考古学共同研究 2014年成果発表会』2014.12.30日、ハノイ市・ベトナム国家歴史博物館
- 15.惠多谷雅弘、宇宙考古学の新たな展開、学習院大学国際研究教育機構国際シンポジウム「陝西省考古発見の最前線」(学習院大学国際会議場)、2014年12月20日、査読無
- 16.黄曉芬「棺槨説」『記念馬王堆漢墓発掘四十周年国際学術研討会』2014年12月12-14日、中国湖南・長沙市
- 17.菊地大樹「中国古代を駆けた馬たち」山梨県立博物館平成26年度秋期企画展「甲斐の黒駒」記念講演会 2014年11月、山梨
- 18.鶴間和幸「中国・エジプト両文明と古代陵墓」日本リモートセンシング学界第57回学術講演会講演、京都大学宇治おうばくプラザ、2014年11月7日
- 19.覚張隆史 次世代シーケンサーを用いた動物骨の分析. 日本人類学会共催骨考古分科会. アクトシティ浜松(静岡県浜町氏)2014年11月3日、招待講演
- 20.久慈大介「従陶器製作技術看二里頭文化—為闡明二里頭文化形成過程的基礎研究—」(中国語発表)「紀念二里頭遺址發現 55周年学術研討会」(2014年10月25日、於中国北京市・中国社会科学院)
- 21.黄曉芬「越南漢交趾郡城・漢墓群に関する調査と認識」『漢代陵墓考古与漢文化国際学術研討会』2014年10月10~13日、中国徐州
- 22.菊地大樹「関于二里頭文化家馬利用的可能性」紀念二里頭遺址發現 55周年学術研討会、2014年10月、中国北京
- 23.MARUYAMA Masashi, KIKUCHI Hiroki “Early horse utilization in western Japan” 12<sup>th</sup> International Conference of Archaeozoology, 2014年9月, Argentine
- 24.KIKUCHI Hiroki, DAIYUN Liu “Horse production and management system in Zhou Dynasty, China” 12<sup>th</sup> International Conference of Archaeozoology, 2014年9月, Argentine
- 25.黄曉芬「漢墓と漢帝国の影響」(第27回浜田青陵賞記念シンポジウム)『波濤をこえて—古代東アジアの交流史—』要旨 pp.36-44、2014年9月20日、大阪岸和田市
- 26.黄曉芬「地中海の葬制」(国際共同研究集会)『陵墓考古学国際研究集会』2014.8.21日、中国西安市
- 27.惠多谷雅弘、衛星データの考古学的応用事例について、陵墓考古学国際研究集会、中国西安市陝西省考古研究院、2014年8月21日。
- 28.市来弘志「古代長安と東アジア文化交流」学術シンポジウム、市来弘志、「農牧境界地帯としての隴西地域と長安」、中国西安・西北大学、2014年8月23日
- 29.福島 恵「絲綢之路青海道上的粟特人—从看“康令憚墓志”鄯州西平康氏一族—」第二屆絲綢之路国際学術討論会“粟特人在中国: 考古發現与出土文献的新印証”, 2014.8.13、於中国寧夏銀川柏悦酒店, 中国語
- 30.福島 恵「シルクロード青海の道上のソグド人—「康令憚墓誌」を中心に」第7回東アジア石刻研究

法人番号	131008
プロジェクト番号	S1391002

会, 2014.7.26, 於明治大学

31.KIKUCHI Hiroki “The Birth of the Horse Production System during the Zhou Dynasty, China” Sixth Worldwide Conference of the Society for East Asian Archaeology, 2014年6月, Mongolia

32.菅野恵美 「王莽期の祥瑞」、学習院大学、2014年6月

33.鶴間和幸「始皇帝と東方世界」東海大学情報技術センター研究報告会、2014年2月22日

34.菊地大樹・劉呆運・米田穰・覚張隆史「中国西周王朝における馬飼養管理の実態」日本ウマ科学会第26回学術集会、2013年12月、東京

35.菊地大樹・劉呆運・米田穰・覚張隆史「西周王朝の牧経営」第24回日本中国考古学会大会、2013年12月、東京

36.恵多谷雅弘、鶴間和幸、衛星データを用いた秦始皇帝陵の陵園空間に関する一考察、日本中国考古学会2013年度大会(駒澤大学)、2013年12月14日、査読無。

37.恵多谷雅弘、衛星リモートセンシングデータによる秦始皇帝陵の立地検討、リモートセンシングデータを活用した東アジア古代史研究国際シンポジウム(学習院大学)、2013年11月16日、査読無。

38.村松弘一「アジアを学ぶー近代学習院の教育～人と人とのかかわりから～」学習院大学史料館講座「東洋学の歩いた道」、学習院創立百周年記念会館正堂、2013年10月

39.覚張隆史 同位体分析から食性と環境を探る。日本動物学会シンポジウム。北海道大学総合博物館(北海道札幌市)2013年5月25日、招待講演

40.KIKUCHI Hiroki “Horse Sacrifice in Pre-Qin Age, China”

Society for American Archaeology 78<sup>th</sup> Annual Meeting, 2013年4月, Honolulu

#### <研究成果の公開状況>(上記以外)

シンポジウム・学会等の実施状況、インターネットでの公開状況等

ホームページで公開している場合には、URLを記載してください。

<既に実施しているもの>

#### ●シンポジウム3回

1. 平成25年11月16日(於:学習院大学国際会議場)

国際シンポジウム「リモートセンシングデータを活用した東アジア古代史研究」\*1

孫涛(復旦大学中国歴史地理研究所教師)「GISの歴史地理研究における応用——1855年の黄河下流の古道復元実践」\*2

潘威(陝西師範大学西北歴史環境与経済社会発展研究院助理研究員)「GISと中国史における水文変化の研究」\*3

恵多谷雅弘(東海大学情報技術センター)「衛星リモートセンシングデータによる秦始皇帝陵の立地検討」\*4

鶴間和幸(学習院大学文学部史学科教授)「始皇帝陵と東方世界～大河・山川・海」\*5

鼎談 鶴間和幸×恵多谷雅弘×村松弘一「時空をこえるリモートセンシングデータの活用」\*6

2. 平成26年12月20日(於:学習院大学国際会議場)

国際シンポジウム「陝西省考古発見の最前線」\*7

曹龍(陝西省考古研究院副研究員)「西漢帝陵の陪葬制度」

張偉(陝西省考古研究院助理研究員)「高陵楊官寨遺跡の考古発見と収穫」

覚張隆史(日本学術振興会特別研究員)「ウマの骨化学分析による生態復元の新展開」

菊地大樹(日本学術振興会特別研究員)「中国古代王朝の馬匹生産」\*10

法人番号	131008
プロジェクト番号	S1391002

恵多谷雅弘(東海大学情報技術センター)「宇宙考古学の新たな展開」\*9

鶴間和幸(学習院大学文学部史学科教授)「始皇帝陵園区の空間構造」\*8

3. 平成 28 年 1 月 23 日(於:学習院大学国際会議場)

国際シンポジウム「古代東アジア都市の馬と環境」\*15

吉田愛(国際研究教育機構 PD 共同研究員)「北朝後期の軍馬供給」

河野剛彦(学習院大学国際研究教育機構 PD 共同研究員)「唐代の朝貢品・回賜品に見る馬」

河野保博(学習院大学東洋文化研究所客員研究員・鄭州大学アジア太平洋研究センター兼職研究員)「日唐厩牧令の比較からみた日本古代の馬と交通」

福島恵(早稲田大学教育・総合科学学術院 日本学術振興会特別研究員 RPD)「唐前半期における馬の域外調達—宦官『劉元尚墓誌』を中心に—」\*18

原瑠美(学習院大学国際研究教育機構 PD 共同研究員)「南宋臨安における馬の利用」

鶴間和幸(学習院大学文学部教授)「秦始皇帝陵出土銅車馬に見る馬の制御システム」\*16

李相勲(慶北大学校嶺南文化研究院研究教授)「新羅の馬と牧場」

覚張隆史(金沢大学国際文化資源学研究所 特任助教)「遺跡出土馬における古代 DNA 分析の進展」

菊地大樹「秦國の馬匹生産」(京都大学人文科学研究所日本学術振興会特別研究員 PD)\*19

青木俊介(学習院大学国際研究教育機構 PD 共同研究員)「漢代の関所による馬の通行規制」

菅野恵美(関東学院大学准教授)「墓葬装飾から見る中国古代の馬」

村松弘一(学習院大学国際研究教育機構教授)「秦漢時代関中平原の環境と馬」\*17

#### ●講演会 5 回

1. 平成 26 年 2 月 21 日(於:学習院大学国際会議場)

学習院大学・慶北大学校連携特別講演会

李相勲(慶北大学校師範大学講師)「李成桂の威化島回軍」

金知恩(韓国放送通信大学講師)「朝鮮後期嶺南南人の形成と発展」

2. 平成 26 年 4 月 10 日(於:学習院大学国際会議場)

第1回 海外若手研究者講演会

崎川隆(吉林大学古籍研究所副教授)「中国古代の複製技術-青銅器銘文鑄造技術の検討から-」

3. 平成 27 年 1 月 16 日(於:学習院大学国際会議場)

学習院大学国際研究教育機構 特別講演会

南廷昊(慶北大学校師範大学附設高等学校教師)「百濟武王の王妃と義慈王の生母についての考察」\*11

任小波(復旦大学中国歴史地理研究所専任講師)「763 年吐蕃による長安陥落の再検討」\*12

聶順新(陝西師範大学西北歴史環境経済社会発展研究院助理研究員)「国忌行香制度における唐代長安の寺観」\*13

4. 平成 28 年 1 月 22 日(於:学習院大学国際会議場)

東アジア史特別講演会

久慈大介(学習院大学国際研究教育機構客員研究員)「『中原』の誕生-洛陽盆地における初期王朝の成立-」

金康勲(亀尾荊谷中学校教師)「遼東地域の高句麗復興運動と剣牟岑」\*21

郭雪妮(陝西師範大学文学部講師)「『松浦宮物語』における長安の景観」\*21

齊光(復旦大学中国歴史地理研究所講師)「康熙年間の満文史料からみた西安周辺の気候・災害・農業・水利」\*23

5. 平成 28 年 3 月 11 日(於:学習院大学国際会議場)

学習院大学国際研究教育機構 特別講演会

法人番号	131008
プロジェクト番号	S1391002

肖愛玲(陝西師範大学西北歴史環境経済社会発展研究院副研究員)「前漢長安城の空間形成について」\*24

#### 14 その他の研究成果等

「12 研究発表の状況」で記述した論文、学会発表等以外の研究成果及び企業との連携実績があれば具体的に記入してください。また、上記11(4)に記載した研究成果に対応するものには\*を付してください。

※ 論文や学会発表等になじまない研究である場合は、本欄を充実させること

1. 平成26年7月15日～7月25日(於:東京中国文化センター)

展覧会『中国文字博物館 漢字展～中国古代文明の歴史を探る～』\*11

関連講演

7月15日 鶴間和幸「東アジアにおける漢字文明」

7月16日 久慈大介「漢字の考古学—中国文明における漢字の誕生とその起源—」

7月17日 青木俊介「中国の木簡」

7月18日 村松弘一「中国古代文明と漢の長安城」

7月22日 菅野恵美「音が導く漢字の変化—甲骨文字から簡体字まで—」

7月24日 福島恵「墓誌史料とソグド人」

2. NHKスペシャル アジア巨大遺跡 第3集「中国 始皇帝陵と兵馬俑」\*20、2015年11月7日(土)午後9時00分(50分)、鶴間和幸出演

#### 15 「選定時」に付された留意事項とそれへの対応

<「選定時」に付された留意事項>

留意事項が付されていない場合は「該当なし」と記載してください。

該当無し

<「選定時」に付された留意事項への対応>

付された留意事項に対し、どのような対応策を講じ、また、それにより、どのような成果があがったか等について、詳細に記載してください。



法人番号	131008
プロジェクト番号	S1391002

## 16 施設・装置・設備・研究費の支出状況(実績概要)

(千円)

年度・区分	支出額	内 訳						備考
		法人負担	私学助成	共同研究機関負担	受託研究等	寄付金	その他( )	
平成25年度	施設	0						
	装置	0						
	設備	0						
	研究費	11,696	6,449	5,247				
平成26年度	施設	0						
	装置	0						
	設備	0						
	研究費	11,892	7,222	4,670				
平成27年度	施設	0						
	装置	0						
	設備	0						
	研究費	11,845	6,517	5,328				
総額	施設	0	0	0	0	0	0	0
	装置	0	0	0	0	0	0	0
	設備	0	0	0	0	0	0	0
	研究費	35,433	20,188	15,245	0	0	0	0
総計	35,433	20,188	15,245	0	0	0	0	

※ 3年目(または2年目)は予定額。

## 17 施設・装置・設備の整備状況 (私学助成を受けたものはすべて記載してください。)

《施設》(私学助成を受けていないものも含め、使用している施設をすべて記載してください。)

(千円)

施設の名 称	整備年度	研究施設面積	研究室等数	使用者数	事業経費	補助金額	補助主体

※ 私学助成による補助事業として行った新增築により、整備前と比較して増加した面積

\_\_\_\_\_ m<sup>2</sup>

法人番号	131008
プロジェクト番号	S1391002

《装置・設備》(私学助成を受けていないものは、主なもののみを記載してください。)

(千円)

装置・設備の名称	整備年度	型番	台数	稼働時間数	事業経費	補助金額	補助主体
(研究装置)							
(研究設備)				h h h h h			
(情報処理関係設備)				h h h h h h h h h h			

## 18 研究費の支出状況

(千円)

年 度	平成 25 年度		
小 科 目	支 出 額	積 算 内 訳	
		主 な 使 途	金 額
教 育 研 究 経 費 支 出			
消耗品費	2,882	パソコン関連費・文具費	2,882
光熱水費	0		0
通信運搬費	43	郵便費・運搬費・通信費	43
印刷製本費	93	印刷費	93
旅費交通費	1,600	研究調査旅費	1,600
報酬・委託料	1,223	報酬・謝礼	1,223
(その他教研費)	2,132	招聘旅費・衛星写真使用料	2,132
計	7,973		
ア ル バ イ ト 関 係 支 出			
人件費支出		アルバイト人件費	時給1200円,年間時間数561時間(3人) 時給900円,年間時間数59.5時間(1人) 時給950円,年間時間数11.5時間(1人) 実人数 5人
(兼務職員)	785		785
教育研究経費支出	0		0
計	785		
設 備 関 係 支 出(1個又は1組の価格が500万円未満のもの)			
教育研究用機器備品	1,988		1,988
図 書			
計	1,988		
研 究 ス タ ッ フ 関 係 支 出			
リサーチ・アシスタント	0		0
ポスト・ドクター	950		0
研究支援推進経費	0		0
計	950		学内1人

法人番号	131008
プロジェクト番号	S1391002

年 度	平成 26 年度		
小 科 目	支 出 額	積 算 内 訳	
		主 な 使 途	金 額
教 育 研 究 経 費 支 出			
消 耗 品 費	778	文具費・パソコン関連費	778
光 熱 水 費	170		170
通 信 運 搬 費	56	運搬費	56
印 刷 製 本 費	309	印刷費	309
旅 費 交 通 費	1,440	研究調査旅費	1,440
報 酬 ・ 委 託 料	1,454	報酬謝礼・委託費	1,454
(その他)	2,025	招聘旅費	2,025
計	6,232		
ア ル バ イ ト 関 係 支 出			
人件費支出		アルバイト人件費	時給1200円、年間時間数209時間(1人) 時給900円、年間時間数251時間(1人) 時給950円、年間時間数52.5時間(1人) 実人数3人
(兼務職員)	574		574
教育研究経費支出	0		0
計	574		574
設 備 関 係 支 出(1個又は1組の価格が500万円未満のもの)			
教育研究用機器備品			
図 書			
計	0		
研 究 ス タ ッ フ 関 係 支 出			
リサーチ・アシスタント	0		0
ポスト・ドクター	5,086		学内3人
研究支援推進経費	0		0
計	5,086		学内3人

年 度	平成 27 年度		
小 科 目	支 出 額	積 算 内 訳	
		主 な 使 途	金 額
教 育 研 究 経 費 支 出			
消 耗 品 費	768	文房具費・パソコン関連費	768
光 熱 水 費	0		0
通 信 運 搬 費	30	郵便費	30
印 刷 製 本 費	35	印刷費	35
旅 費 交 通 費	1,564	研究調査旅費	1,564
報 酬 ・ 委 託 料	1,801	報酬謝礼・委託費	1,801
(その他)	1,028	招聘旅費	1,028
計	5,226		
ア ル バ イ ト 関 係 支 出			
人件費支出		アルバイト人件費	時給1200円、年間時間数391時間(1人) 時給910円、年間時間数372.5時間(2人) 実人数3人
(兼務職員)	879		879
教育研究経費支出	0		0
計	879		
設 備 関 係 支 出(1個又は1組の価格が500万円未満のもの)			
教育研究用機器備品			
図 書			
計	0		
研 究 ス タ ッ フ 関 係 支 出			
リサーチ・アシスタント	0		
ポスト・ドクター	5,740		5,740
研究支援推進経費	0		
計	5,740		学内3人、学外1人